

## 水稲早生短稈品種「ヒカリ新世紀」および「ゆめそらら」の選定



ヒカリ新世紀 コシヒカリ ゆめそらら



ヒカリ新世紀 コシヒカリ ゆめそらら

## コシヒカリと比較した両品種の特性の概要

- 短稈で耐倒伏性が強い
- やや短穂、穂数多く、多収
- 品質はコシヒカリ並
- 病害抵抗性はコシヒカリと同等
- 穂発芽性はコシヒカリ並で難
- 炊飯米の食味はコシヒカリ並の良

## 「ヒカリ新世紀」および「ゆめそらら」の特性概要

形質	品種	ヒカリ新世紀	ゆめそらら	コシヒカリ
出穂期	(月・日)	8.03	8.02	8.05
成熟期	(月・日)	9.16	9.15	9.15
稈長	(cm)	71	76	96
穂長	(cm)	17.6	17.6	18.9
穂数	(本/m <sup>2</sup> )	510	513	481
全重	(kg/a)	153	152	159
精玄米重	(kg/a)	61.3	61.6	57.0
同上比率	(%)	109	109	100
玄米千粒重	(g)	22.9	22.6	22.8
検査等級	(1~9)	5.4	5.2	5.3
外観品質		5.9	5.7	5.5
倒伏程度	(0~5)	0.8	0.9	2.6
葉いもちほ場抵抗性		弱	弱	弱
白葉枯病ほ場抵抗性		中	中	中
穂発芽性		難	難	難

注1) 調査年次: 2005, 2007~2009年で移植期は5月18日で施肥は以下のとおり

標肥: Nkg/10aで4-0-2-2(基肥-中間肥-穂肥-穂肥)

注2) 精玄米重、千粒重、等級: 1.85mmのグレーダーで調製したもので調査

注3) 外観品質: 1(上上)~9(下下)

注4) 等級: 1(1等上)~9(3等下), 検査機関: 鳥取農政事務所

注5) 倒伏程度: 0(無)-5(甚)

## 炊飯米の食味はコシヒカリ並の良食味

## 現地の収量

表. 「ヒカリ新世紀」および「ゆめそらら」の食味官能試験

年次	供試品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ
2007年	ヒカリ新世紀	-0.20	0.05	-0.10	-0.15	-0.20	-0.05
	ゆめそらら	-0.15	-0.10	-0.15	-0.15	-0.25	0.45**
2008年	ヒカリ新世紀	0.10	-0.25*	-0.25	-0.10	0.25	-0.15
	ゆめそらら	-0.15	-0.10	-0.25	-0.10	0.05	-0.37
2009年	ヒカリ新世紀	0.15	0.05	-0.20	0.05	0.10	0.15
	ゆめそらら	0.10	0.05	0.00	-0.11	-0.15	0.00

注1) 場内選抜ほ場のサンプルを使用し、農試職員で行いパネル数は20人(2007年は16人)。

注2) 基準は少肥コシヒカリで施肥はNkg/10aで2-0-2-2

注3) 施肥はNkg/10aで4-0-2-2(基肥-分けつ肥-穂肥-穂肥)。

注4) \*\*:1%有意、\*5%有意(t検定)

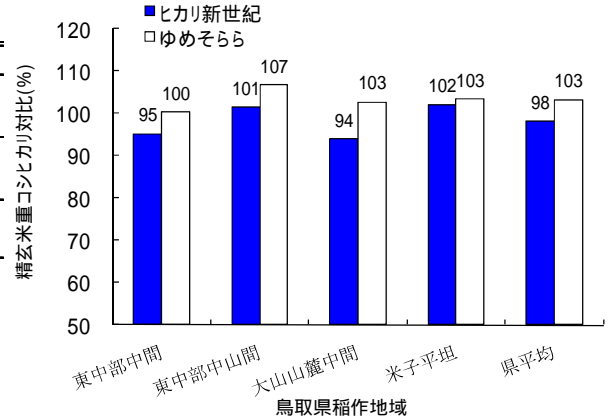


図. 「ヒカリ新世紀」および「ゆめそらら」の現地試験における収量コシヒカリ対比  
注) 平成19~21年の水稻選抜現地試験データ

**基肥や穂肥については今後も継続して検討しますが現時点で以下のことが考えられます。**

**基肥は窒素で2~4kg/10a  
が必要と考えられます**

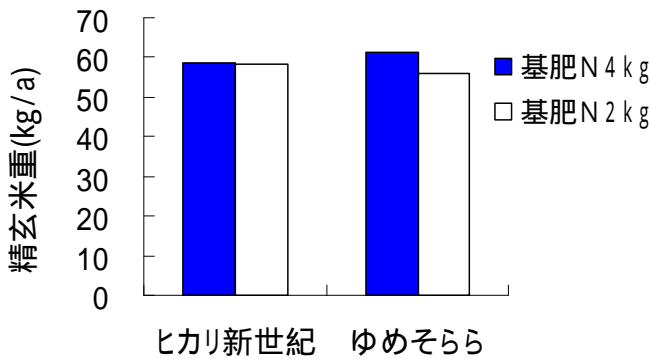


図. 「ヒカリ新世紀」および「ゆめそらら」における  
基肥窒素量による収量の相違  
注) 調査年次: 2006, 2009年, 調査場所: 鳥取農試

**穂肥1回目の時期は幼穂1mm時  
が適当と考えられます**

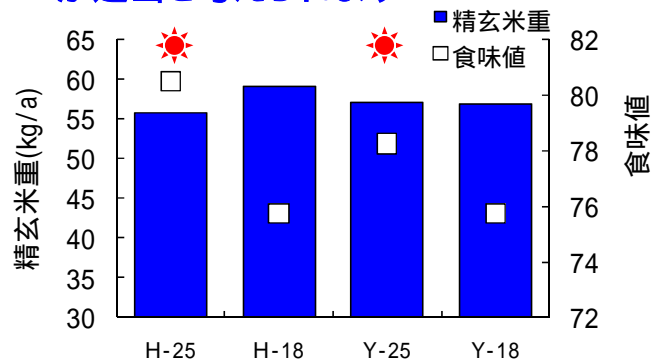


図. 「ヒカリ新世紀」と「ゆめそらら」における穂肥施用時期による収量と食味値  
注1) 調査年次: 2009年, 調査場所: 鳥取農試  
注2) 図中のHはヒカリ新世紀, Yはゆめそららを示し  
マイナス数字は穂肥 時期の出穂前日数を示す

県内のコシヒカリ作付可能地帯を適応地域とするが、山間部では短程になり収穫作業に支障が出る可能性が考えられるため中平坦地域を適応地域とする。

当面の肥培管理はNkg/10aで2~4-2-2(基肥-穂肥-穂肥)とし、穂肥は幼穂1mm時、穂肥はの8~10日後施用とする。

耐倒伏性は強いが、食味低下を防止するため多肥栽培を避ける。

いもち病等の防除はコシヒカリに準じて行なう。

問い合わせ先 : 鳥取県農業試験場 作物研究室

電話 : 0857-53-0721

本書から転載複製する場合には必ず上記に許可を受けて下さい。